



子どももののスマホ利用で 親が知っておきたいこと

みんなとつながりたい
子どもたち

既読スルーの呪い

子どもたちだけでなく、カルチャースクールで知り合ったシニア同士が、LINEの交換をしている姿をよく見かけます。実は、シニアのLINE利用も増えているんです。

LINEの利用者が増えれば、自ずとLINEのトラブルも増えてきます。特に子どもたちの中では、様々な問題が起こっています。例えば、LINEのやりすぎで寝不足に陥っている子どもたちが、どんな心理状況にあるか、ご存知ですか？

大半の子は「楽しくて仕方ないから、ついやりすぎてしまう」わけではないんです。「自分から投稿をやめたら、相手に嫌われるかも……」という強迫観念によって、いつまでもLINEをやめられないのです。

「既読スルー」という言葉があります。

LINEでは、友達の投稿を読んだら、その投稿をちゃんと読んだよ、ということを手元に知らせる「既読マーク」が付きます。このマークが付いているのに相手に返信をしないと、読んだのに無視した、つまり「既読スルーした」と見なされます。「投稿を読んだのに返信しないなんて、友達としてありえない！」となるわけです。

こうなると、もう呪縛。「既読スルー、ありえない」という縄で自分をがんじがらめに縛り、友達の投稿には速攻で答えなければならぬ、という意識を自分の中に植えつけます。だから、自分から投稿をやめることができず、寝不足になるんです。では、どうすればいいのか。それについては、のちほど語りますね。

私たち日本人は、「誰かと、いつでも、つながっていること」に大きな価値を感じています。島国であるがために、日本人同士の結束



長谷川 陽子
情報教育アナリスト

【はせがわ・ようこ】

島根県出身。1994年にUターン後、2001年に「ITと教育」を主事業とした会社を設立。2006年からは情報モラル教育の啓発活動として、全国各地の児童・生徒・学生・教職員・PTAを対象に講演や研修を行う。実績はのべ780校以上。2015年以降は「情報教育アナリスト」として、講演及び青少年のネット利用実態調査分析に専念。日本で唯一、神主と兼業で活躍する情報教育アナリスト。2018年より総務省地域情報化アドバイザー。オフィシャルサイト <https://www.hasegawa3.org/>

が強まった、という歴史的な背景もあるでしょう。「村意識」がとて強く、仲間はすれにされることや、一人ぼっちでいることに恐怖すら感じるのも、日本人の特徴です。

でも、外国人は違います。私の妹はアメリカに住んでいます。LINEの「既読スルー、ありえない」の話をアメリカ人にする時、「は？ 何それ？」と、ぜんぜん理解してくれないのだそうです。独立心の強いアメリカ人にとって、LINEの投稿に返信するのもしないのも、自分の自由。相手のことを考えていないわけではないのですが、「投稿には何があっても返信しなければならぬ。返信しないと人間関係がぎくしゃくする」なんて考え方はしないんです。

知らない人とつながる光と影

「友達がいない子より、友達がいる子のほうが、圧倒的に良い子だ」



みなさん、きつとこんなふうに使っていますよね。だから、自分の子どもにたくさん友達がいると、うれしくなりますよね。

でも、友達の人数が多いことって、そんなにいいことでしょうか？ ほめられるべきことでしょうか？ それを考えてもらうために、ある女子中学生の例をご紹介します。

「わたし、ツイッターで300人も知らない人とつながっているんです！」

そう目を輝かせながら言ってくれた女子中学生がいました。彼女にとって、ツイッターで300人も人と常につながっていること

は、みんなに言いふらしたくなるような自慢です。これを聞くと、「へえ、ツイッターで300人も友達ができたんだ。すごいねえ」と思いがち。でもね、これ、冷静に考えると、かなりコワイことですよ。

だって、300人みんな、顔も本名も知らない人たちなんです。一応プロフィールは書いてありますが、男なのに女だと偽っていても、それを確かめる術はありません。第一、300人の中に、女子中学生好きの変質者が混じっていないと、どうして言い切れるんでしょうか。

「ツイッター上のやり取りは、たくさんの人でひしめく街のど真ん中で、プライベートな会話を大声でしているようなものです」

これは、ツイッターを説明する時によく使うたとえ話です。

「ねえねえ、明日の午後3時、シブヤでお茶しない？」「いいよ。どの店にする？」「じゃあ〇〇で。あそこのケーキ、おいしいんだよね」。こんな他愛のない会話を、全世界のツイッターユーザーに見られてしまうんです。ツイッターでは、「この人と友達になりたい」と思う人をフォローするだけで、その人の投稿を見ることが出来ます。

もしも悪意を持った第三者が、この女の子のツイートを前々から見ていて「午後3時、シブヤでお茶する」という投稿を見たら、どんな行動を起こすでしょうか。2人がお茶する場所に行つて顔を確認し、ひそかに彼女の後をつけて自宅にたどり着くかもしれませ

ん。そして、彼女が1人暮らしだった場合、ある日、そつと忍び込んで…。これ以上は言いません。想像するのもイヤですよ。

考えたくもありませんが、こうなる可能性はあります。だって、相手が極悪人であったとしても、「今日から友達になろう」「いいよ」ができるのが、ツイッターなのです。

最初の話に戻りましょう。「ツイッターで300人も知らない人とつながっている」。これ、うれしいことだと思いますか？ ほめられるべきことだと思いますか？

友達は「人数」ではない

こういう話をする時「やっぱり、ツイッターは禁止したほうがいいですね」とおっしゃる親御さん、いらつしやいます。そういう気持ちになるのは分かりますが、これは「小さい物にフタをする」と同じ。ツイッターでつながるのが悪いことではなく、見知らぬ他人とつながる危険性を理解しないまま、誰とでも簡単につながってしまうことが危険なのです。

ツイッターは便利です。特に威力を発揮するのが災害時。「〇〇地区で人が孤立している。誰が助けてあげて」「□□川の水位が上がっています！ 近づかないで！」など、あちこちにいるツイッターユーザーが、生の情報をリアルタイムでつばやきます。もちろんデマもありますが、ツイッターによって救われた人たちも大勢います。

理解して使えば、自分の生活をより豊か

にしてくれる道具。これがツイッターなどのSNSです。考えてみれば、何でもそうですよ。包丁だって、正しく使わなければ手にケガをします。SNSも同じです。正しく使うことが重要なんです。

さて、さきほどの女子中学生にアドバイスすべきことは、何でしょうか。

「300人とつながってはいけない」ことではありませんよ。「知らない人と300人つながることの意味やリスク」をアドバイスすべきなんです。それを知れば、もう彼女は「300人とつながっている！」と自慢することはないでしょう。

友達がいないより、いたほうがいいことは、誰でも分かっています。でも、ネットでは、誰が必要のない友達、顔も知らない友達がたくさんいることに、意味があるのでしょうか。「友達の人数が多い＝スゴい子」という呪縛から、もう子どもたちを解放してあげましょうよ。

何がダメなの？ 何でダメなの？

「ダメ！」と言っただけでダメになる

「何で小学生や中学生がスマホを持つてはいけないの？」

子どもたちからこう聞かれたら、何て答えますか？ 子どもがスマホを持つてはいけない理由、きちんと答えられますか？

「理由なんて知らない。ダメなものダメと大人が言い切ることが大事だ」という親御

さんもいるでしょう。そうですね、ダメなものはダメと言わなければならない時、あります。

それはいいんです。でも、そう言い切るのと同時に、「なぜダメなのか」という理由を子どもたちに伝えないと、たぶん、いつまでたっても子どもたちをネットトラブルから守ることはできません。

スマホを持つてのはダメだと言われたA君。きつと、次はこう言ってきますよ。

「じゃあじゃあ、3DSならいいでしょ。ゲームだし、みんな持つてるし」

そうか。そうだよ。ただのゲームなら、まあいいだろう。こう思つて、A君に3DSを買い与えたとしましょう。数ヶ月後、A君が「児童ポルノ製造の罪」に問われる、なんてことが実際に起こります。

なぜか。

3DSは、ただのゲーム機ではないからです。カメラは付いているし、インターネットにつながることもできる。画像投稿ツールを使えば、撮影した写真をツイッターやフェイスブックに投稿することができます。18歳未満が、自分の裸をふざけて自撮りした瞬間に児童ポルノ製造の罪になるのです。

いかがです？ スマホと変わらないと思いませんか？

子どもたちは欲しいものに食欲です。スマホがダメと言われたら、同じ機能を持つ別の物を要求してきます。あれがダメならこれ、これがダメならそれ、というふうに変え品を変え、親にOKをもらおうとします。

結局、ダメというだけでは、子どもとのイタチごっこが永遠に終わらないのです。

「何が」「なぜ」「どうダメなのか」

一つ、練習してみましようか。小学生の子に「LINEをやつてはダメ」を伝えるために、あなたならどう説明しますか？

「LINEには『既読スルー』の問題があるから」

惜しい！

でも、これではお子さんを説得できないかもしれません。

既読スルーが問題ではないんです。「既読スルー、ありえない」という呪縛にとらわれたまま、寝る間も惜しんでLINEをやつてしまうことが問題なんです。

「LINEつて、既読スルーつていうのがあるんだつてね。でもね、読んだら即返信しなければいけない、なんて決め事はないよ。もし、既読スルーがコワくて夜中までLINEをするようなら、それつて健康によくないでしょ。体に悪いことを、あえてするの？」

という話なのです。

肝心なのは、LINEがダメなことではなく、LINEで何をやつたらダメなのか、なぜダメなのか、を伝えることなんです。

「夜10時を過ぎたら、LINEはやつちゃダメなんだよ。それはね、睡眠不足になりがちだから。スマホの画面からはブルーライトという光が出ていて、それを浴び



続けると、人の体は『まだ昼間だ』と感じてしまつて、目が冴えるので、眠れなくなるからますますLINEを続けるでしょう。その結果、寝不足になって、朝は体がダルくて頭もぼーっとしている。ニキビだつていつばい出るよ。これ、いいことだと思ふ?」

ここまで説明して初めて、子どもたちは「ああ、夜遅くまでLINEをやっちゃいけないんだな」と納得します。

リスクを想像させる

では、ツイッターでは、何をやったらダメで、どうダメなのでしょう。さきほどもお話したように、ツイッターは見も知らぬ世界中の人たちとつながれる

コミュニケーションサービスです。つながった人たちからは、自分の投稿が丸見えになります。そこに、自分のミニスカート姿の写真を投稿したら、どんなことが起こるか。

本当に仲の良い友達なら、その写真を悪用することはないでしょう。でも、10代女子を好奇心な目で見る人が自分とつながっていて、その写真をスマホの待ち受けにしたとしたら、どうでしょうか。

「別にいいよ、わたし、気にしないし」という場合はいいんです。でも、そんな女の子、います?」

こう言うと、「大丈夫、ボク、男だから」と言ってくる男子たちが必ずいます。男子のみなさん、よく聞いてください。世の中には、若い男の子が大好きな人が少なからずいるんですよ。君たちの写真を見て、エッチな妄想をふくらませるんです。それでも「大丈夫、ボク、男だから」と言い切れますか?」

みなさんを脅すつもりで、こんなことを言っているではありませんし、セクシャルマイノリティの方を誹謗しているわけでもありません。事実だから言っているんです。

ともあれ、こんなふうには、子どもたちに「リスク」を想像させてあげると、なぜダメなのか、どうダメなのか、自然と理解してくれます。ツイッターで自分の写真や学校名、所属している部活などの個人情報や流すと、校門の前で知らない人に待ち伏せされるなんてことが起こるよ、といった危険性をイメージさせてあげましょう。

「ネットは苦手…」では、子どもを守れない

親だつて最低限の知識は必要

お母さんたちからよく寄せられる「お悩みベスト3」に入るのが、これ。

「わたし、ネットのことはよく分からないんです。うとくて…。だから、子どもに任せてるんです」

ですよね。ネットって、慣れていない人にとってはチンプンカンプンですよ。何をどうしたら写真をアップできるのか、友達申請できるのか、分からないですよ。そもそも「スマホを使いこなせない」という大人のみなさん、とても多いんです。

でも、ごめんなさい。「分からない」では、子どもたちを守れないんです。いまだき、小学校低学年がスマホを使いこなす時代です。「そうは言うけど、うちは子どもにスマホを買い与えていないから、使いこなすも何もないよ」と思っているかもしれないが、ちよつと待つてください。買い与えていなくても、ご自分のスマホをお子さんに貸していませんか? そしてそのスマホを、お子さんが使い過ぎていませんか?」

だから、親だつて最低限の知識を身につけておく必要があるんです。「でも、何から手をつけていいのかわからないから…」という親御さん。大丈夫です。まずは「子どもを守るための機能」を知るところから始めましょう。

【図1】LINEの一時停止設定



【図2】LINEの友だち追加設定



■ ネット利用実態 (小学生全国平均)

- 1位 YouTube (90%超)
- 2位 ゲーム (人気はポケモン、モンハン)
- 3位 調べもの

※ SNS、Twitter、インスタ、TikTok、mix チャンネル

次々に新サービスが登場する
まずは実情を知ることがポイント

知っておきたい3つの「身守り機能」

子どもたちがスマホでよく使っているサービス、何だと思いませんか？ 多くの親御さんは「ツイッター」「フェイスブック」と答えますが、全国どこでも、意外な結果が出ます。

堂々の1位は……

ユーチューブ

これ、小学生、中学生、高校生を問わず、どの学校でアンケートしても1位です。都市部でも地方でも同じ。多くの子どもたちが、ユーチューブにアップされている動画を見て、楽しんでるんです。

あれ？ ツイッターやフェイスブックは？
と思いますよね。ランクインはしています。

ただし、ツイッターは10位まで、フェイスブックは13位と、下のほうです。

さて、子どもたちに大人気のユーチューブ。このユーチューブを見て、不登校寸前になつてしまった小学生がいます。

ある日、ユーチューブの動画を何気なくポチッと押したところ、女性が生きたままクビを切られる動画が再生されました。その子は「あつ！」と思つたんですが、驚きのあまり固まつてしまい、とうとう動画を最後まで見てしまいました。

それはもうショックです。次の日からその子は、「人間がコワイ。もう学校へ行きたくない」と、引きこもりのような状態になつたそうです。幸い、この子はカウンセラーが対応し、ちゃんと元通りの生活を送れるようになりましたが。

こういうことが起きないように、ユーチューブには「制限付きモード」という機能があります。この設定をオンにすれば、子どもに見せたくないような暴力的な動画は、ある程度再生されなくなります。

ツイッターにも、同じ機能があります。

「エロログロは見えない」という設定にしておけば、ツイッターにリンクを貼られたエロログロのユーチューブ画像は見られなくなります。具体的にどうしたらいいかは、「ユーチューブ 制限付きモード」でググってくださいね。ちなみに、エロログロの「エロ」はエロい、「グロ」はグロテスクの略です。

LINEにも、寝不足を予防できる設定

があります。「1時間停止」または「午前8時まで停止」という設定です【図1】。ところがこの設定、LINEをよく使っている現役高校生にすらあまり知られていないんです。これを使えば、そもそも友達からLINEの投稿があつたことすら分からないので、既読スルー問題は起こりません。

LINEを登録する時に「アドレス帳を送信しない」を選択しましたが、LINEのIDを持つている人は「LINEのID検索許可しない」に設定変更しましたか【図2】。

子どもだけでなく、大人でもLINEのトラブルが起こっています。自分が使うアプリ・サービスの設定は確認して、リスクがありそうだと思ったら設定変更をしましょう。

「え!? どうやるの」。講演会でもよく質問を受けますが、まずは自分で調べるクセを付けましょう。自分で使う物だからこそ、しっかりと自分で情報を得てリスクヘッジしましょう。

これだけはやっておきたい設定とは……

もう一つ、ぜひ知っておいてほしいという機能があります。「GPS」「ジオタグ」をオフにする設定です。

「ジオタグって何?」

はい。お答えします。

ジオタグとは、写真に埋め込まれる撮影場所の位置情報のことです。GPSは、人工衛星から送られてくる電波を使って位置を計算するために使われるシステムです。

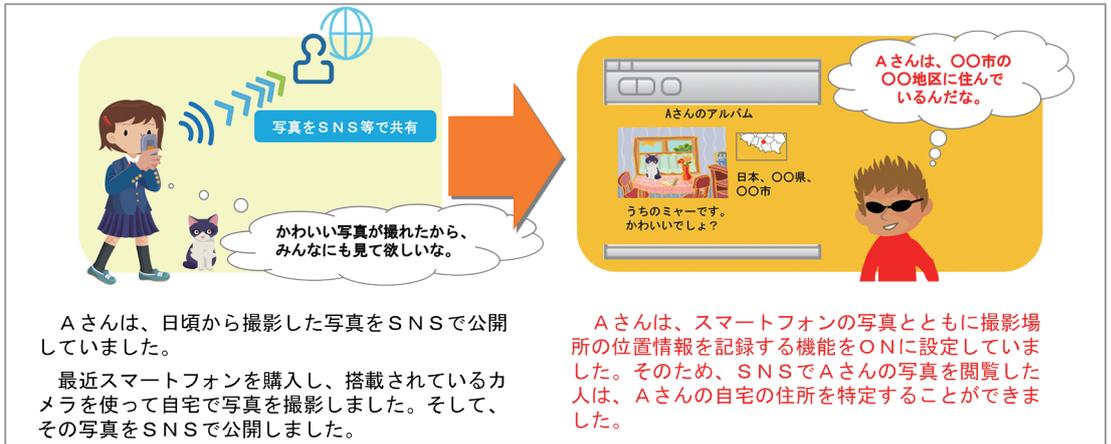
【図3】「ジオタグ」とは？

もっと詳しく
知りたい方は…



『ある日突然、普通のママが子どものネットトラブルに青ざめる』（長谷川陽子著、アイエス・エヌ刊、2017年12月）

主に写真データに付加される追加情報（タグ）で、緯度と経度の数値を含めたもの。これによって、写真が撮影された場所を特定して地図サービスの画面上に並べ、「場所」を基準に整理・公開することなどが可能となります。意図せずに、写真とともに、撮影した場所の位置情報が掲載されて、自分の居場所や自宅が他人に特定されるトラブルが発生しています。**必要がなければ、スマートフォンの設定で位置情報を「オフ」にしておきましょう。**※機種により設定方法が異なります。詳しくは各携帯電話会社へご確認ください。



出典：総務省『インターネットトラブル事例集（Vol.3）』より転載

スマホの初期設定では、このGPS設定が「オン」になっているので、何もしないままスマホを使い始めると、すべての写真にジオタグが埋め込まれます【図3】。

さて、GPSがオンになっているジオタグの付いた写真を、ネット上にアップしたとしましょう。これ、世界中に大きな声で、「わたしはいま、〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地にいます！」と言っているのと同じことです。もしあなたやあなたの子どもを狙っているストーカーがいたら、この情報はまさしく「ごちそう」です。

ジオタグは「どこで撮影した写真なのか」を知るための便利機能として開発されたものです。でも、その情報を生活の中で利用しないのなら、ジオタグを写真に埋め込む必要はないと思いませんか？ だったら、「オフ」にしてしまえばいいでしょう。そのほうが、様々なリスクから身を守れます。

今日現在、ツイッター・LINEなどのアプリにはジオタグは付きませんが、これから出てくる新しいサービスに、ジオタグが付かないという保障はありません。

また、アプリの中には、スマホの設定でGPSをオフにしても、アプリが勝手にオンに変更することもありますから、使う時にはしっかりとスマホを確認しましょう。

「知らなかったで罪になる」

昔は「ネットのことを知らなくても生きていった」かもしれません。でも、インターネ

ットが生活の一部になったいま「知らなかった」はもはや通用しないんです。ちよつと脅かすようなことを言えば、「知らなかった」がトラブルにつながる例が、決して少なくはないのです。

自分の裸の写真をネット上に公開して「児童ポルノ製造の罪」に問われた子どもたちは、まず間違いなくこう言います。

「こんなことになるなんて、知らなかったんだよ。ちよつとぶざけてただけだったんだよ」

親御さんもこう言います。

「やっちゃいけないなんて、知らなかった…」

はい、知らなかったがトラブルにつながったケース、一丁上がりです。

子どもをトラブルから守る一番の方法、それは「知ること」だと思います。いま子どもたちがどんなインターネットサービスを利用しているか、知っています。どんな使い方をしているか、知っています。そして見守る。「任せる」と言っただけで、知らんぷりしたり、目をそらしたりしない。これが、最強にして最高の防御策なんです。

子どもだけじゃありません。ネットを使う人ならば、大人もいっしょです。「設定変更するなんて知らなかった…」「アプリの利用規約なんて読んだことなかった…」知らずに使ったスマホの中に入れてあるアドレス帳・写メのデータ等の個人情報第三者に漏れても、誰にも文句は言えませんか。

便利な道具だからこそ「人任せ」にせず、しっかりと自分で確認しましょう。